

科目	生理学	担当	渡邊 和子	履修学年	1年
時間数	90分×時限×38回(週1回)	履修区分	必修	単位数	3単位
<p><b>【授業目標・到達目標】</b>  命のしくみについて、正常機能のしくみとその破綻により生じる障害について理解し、健康を維持するために重要なメカニズムを学ぶ。受講者は身体の正常な機能および諸機能の関連性を修得し、健康な身体を維持するメカニズムと疾病について説明できるようになることを到達目標とする。</p> <p><b>【履修注意】</b>  生理学はロジックな学問である。したがって、これまで慣れ親しんできた丸暗記は通用しない。なぜ？ どうして？なるほど、こういう理由だからこうなる、という「考えて、理解して、覚える」姿勢(勉強)を1日も早く身につけてほしい。高校生物を修得していない場合は高校生物の復習・学習を確実に実施してほしい。毎回講義後に復習し、ノートを作成を怠らず知識の修得を積み重ねることが確実な理解への近道である。生理学は考えて理解する学問であり、理解できると面白くなる学問であることを実感してほしい。解剖学の知識も必須である。</p> <p><b>【評価方法】</b>  中間・期末試験の結果で評価する。期間中に中間試験を実施し、評価の対象とする場合がある。</p> <p><b>【試験について】</b>  筆記試験を実施する。本試験で合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。  再試験対象者の条件：本試験で60点未満の者(本試験で20点未満の場合、再試験対象としないことがある)</p> <p><b>【予習・復習】</b>  毎回の講義後の復習と次回の予習を怠らず、なぜ？なるほど！を実感できるまで配布資料、教科書、参考書および図書館の資料を調べて、理解した内容をノートに書く習慣をつけてほしい。自分で何が理解できていて何を理解できていないかを確認することも大切である。目安として週に140分以上の予習と復習を必要とする。</p> <p><b>【教科書】</b>  オックスフォード生理学 原著4版 岡野栄之、植村慶一監訳、丸善出版  予習・復習に配布する学習問題およびネット上の生命科学教育『一步一步学ぶ生命科学』を推奨する。  <a href="http://physiology1.org/">http:// physiology1.org/</a> 高校で生物を取得していない、生物が苦手な人は下記参考書を購入することを推奨する。</p> <p><b>【参考書】</b>  解剖生理学をおもしろく学ぶ 著者：増田敦子 出版社：医学芸術社</p> <p><b>【その他の注意事項】</b></p> <p><b>【授業計画・内容】</b></p>					